

## NANO CTO 通信 Vol.02 観測メモ

### K-RAS 阻害剤と Molecular Glue

作成日：2026-08-28

資料：NANO ホールディングス「CTO 通信 Vol.02 速報」2026 年 8 月 28 日

位置づけ：NANO 継続観測資料／保存価値：高

---

#### 1. 今回の事実

2026 年 8 月 26 日、FDA は Revolution Medicines が開発する K-RAS 阻害剤

**\*\*ダラクソンラシブ (Daraxonrasib) \*\***を、転移性すい臓がんの二次治療薬として承認した。

CTO 通信によれば、RASolute 302 試験では標準治療 (SOC) 化学療法と比較して、全生存期間 (OS)、無増悪生存期間 (PFS)、客観的奏効率 (ORR) のすべてで統計学的に有意な改善が示された。

#### 全体集団の主要成績

| 評価項目    | ダラクソンラシブ | SOC    | 比較       |
|---------|----------|--------|----------|
| OS 中央値  | 13.2 か月  | 6.7 か月 | HR 0.40  |
| PFS 中央値 | 7.2 か月   | 3.6 か月 | HR 0.49  |
| ORR     | 30%      | 11%    | p<0.0001 |

CTO 通信では、死亡リスクを 60%低減し、全生存期間をほぼ倍増した画期的な治療効果と評価している。

---

#### 2. 技術的に重要な点 — Molecular Glue

ダラクソンラシブは、従来の K-RAS 阻害剤とは作用様式が異なる。

従来型のように K-RAS 分子へ直接結合するのではなく、

1. ダラクソンラシブがサイクロフィリンに結合
2. その複合体が「Molecular Glue (分子のり)」として働く
3. 活性化した GTP 結合型 K-RAS (ON 状態) に結合
4. K-RAS と Raf との結合を阻害
5. 下流の増殖シグナルを遮断

という仕組みである。

これは単なる「新しい K-RAS 阻害剤」というより、

標的分子を直接つかむのではなく、別の分子を介して標的機能を封じる

という創薬設計そのものの変化として観測する価値がある。

---

#### 3. Pan-K-RAS(ON)阻害の意味

CTO 通信では、ダラクソンラシブを

**Pan-K-RAS(ON)阻害剤**と位置づけている。

K-RAS G12C だけでなく、G12D、G12V など複数の G12 変異を対象にできる点が特徴。

このため、特定変異だけを狙う従来型阻害剤より対象患者を広げられる可能性があり、耐性誘導も起こりにくい可能性が指摘されている。

すい臓がんだけでなく、K-RAS 変異を持つ非小細胞肺癌、大腸がんなどへの展開が進んでいることも重要。

---

#### 4. 次の開発競争

Revolution Medicines はダラクソンラシブについて、

- すい臓がん一次治療への進出
- 化学療法との併用
- 非小細胞肺癌
- 大腸がん

へ開発を拡大している。

さらに K-RAS G12D 選択的阻害剤

**\*\*ゾルドンラシブ (Zoldonrasib) \*\***も開発中。

CTO 通信記載の初期データでは、

- mFOLFIRINOX 併用 : ORR 82%、DCR 96%
- GnP 併用 : ORR 61%、DCR 90%

とされ、RAS G12D 変異陽性 mPDAC 一次治療を対象とする第 III 相 RASolute 305 試験も開始されている。

---

#### 5. NANO 観測上、最も重要なところ

今回の CTO 通信で最も重要なのは、

ダラクソンラシブそのものが NANO のパイプラインである、という話ではない。

CTO 通信は、その目的について、

世界の技術革新を継続的にウォッチし、その価値と可能性を見極めることで、当社グループの投資戦略や新たな事業機会の創出につなげていきます。

と明記している。

したがって観測すべきなのは、

**世界の先端技術を観測する**

→ 技術・臨床価値を評価する

→ 投資判断につなげる

→ 新しい事業機会につなげる

という流れを、NANO 自身が明文化し始めたことである。

---

## 6. 「NANO Gateway 構想」との接点

寄り道研究所で考えてきた NANO Gateway 構想は、  
技術を見つける → 価値を見極める → 投資可能な形にする → 国内外の資金・企業・市場  
へ接続する

という見方である。

今回の CTO 通信は Gateway 構想そのものを発表した資料ではない。

しかし、

「世界の技術革新を継続的にウォッチする」

「価値と可能性を見極める」

「投資戦略につなげる」

「新たな事業機会の創出につなげる」

という会社側の表現は、Gateway 仮説を今後検証していくうえで重要な観測材料になる。

現段階では、

NANO Gateway 仮説を裏付けた、と断定するのではなく、会社の行動がその方向へ近づいているかを追跡するための基準点

として保存するのが適切。

---

## 7. 今後の観測ポイント

今後の CTO 通信や IR で次を確認する。

- CTO 通信で紹介された技術と実際の投資・提携が結びつくか
- 海外バイオ企業・大学・研究機関との具体的接続が出るか
- NewCo、子会社、ライセンス、共同開発などへ発展するか
- NANO 自身の核酸・mRNA 技術との接点が示されるか
- 「技術探索 → 評価 → 投資 → 事業化」の一連の動きが確認できるか

これらが実際に現れれば、NANO Gateway 構想は単なる仮説から、  
より具体的な事業モデルとして評価できるようになる。

---

## 寄り道研究所・観測メモ

今回のニュースで見るべきものは「一つの新薬」だけではない。

難攻不落だった標的を、従来とは違う仕組みで攻略する創薬技術が、  
実際の生存期間延長という臨床成果まで到達した。

そして NANO は、そのような世界の技術変化を

「投資戦略」「新たな事業機会」という言葉で観測し始めている。

ここは今後の NANO を読むうえで、静かに追跡しておく価値がある。

---

## 一次資料

NANO ホールディングス株式会社

「CTO 通信 Vol.02 速報」2026 年 8 月 28 日

「FDA はすい臓がんの二次治療薬として K-ras 阻害剤ダラクソンラシブを承認」